



環境美化に汗流す

第34回いきいき大淀川クリーン大作戦が8月20日、神柱公園を中心とした年見川流域で開催されました。「小さな親切」運動都城支部の呼び掛けで、毎年実施されるこの取り組み。市内の企業や行政機関など約35団体と、中学・高校生や地域住民ら合わせて約千人が参加し、園内を流れる年見川の堤防沿い歩道の草刈りや、ごみ拾いなどの清掃活動に、汗を流していました。同支部の栗山寛代表は「長年取り組んできた成果が現れ、年見川のきれいな環境が維持できるようになった」と話していました。



いきいき大淀川クリーン大作戦

まちの未来を考える

山之口未来創造塾が8月22日、山之口勤労福祉センターで行われました。山之口町の小・中学校4校の児童・生徒の代表が、自分たちの住む町について感じていることを意見交換し、「まちづくり」への関心と郷土愛を高めるこの取り組み。「山之口を住み続けたい」と思える町にするには」という議題に対し、現在行っている活動を元に意見を発表しました。年に3回高齢者宅へ花を配るなど、子どもならではの視点で自分たちの住む町を良くしていく案を各学校で話し合いながら活発に提案していました。



山之口未来想像塾

古式ゆかしい土俵入り

江戸時代、築堤を祝い花相撲を奉納したのが始まりの「石山花相撲」が8月27日、観音池公園で開催されました。現代の大相撲の土俵入りとは異なる古い形の弓取りや土俵入りが行われ、横綱による弓取りに会場からは「ヨイショー」と掛け声が上がりました。また、今年7歳を迎える男児の豆力士が「ヨイヤーサア」と元気よく土俵入り。両手一杯の山盛りの塩を勢よくくまき、行司の「見合って」の掛け声とともに、力の入った取組が始まると、会場からは声援が寄せられていました。



高城石山花相撲

日頃の訓練が実を結ぶ

8月23日に宮城県で開催された、全国消防救助技術大会のほふく救出で入賞した市消防局特別救助隊員3人が8月29日、池田市長に入賞報告をし、ほふく救出の一部を市長室で披露しました。全国9地区の予選を勝ち抜いた千人が出場した本大会。隊長を務めた垂水孝裕さんが「救助を待つ市民をいち早く救出するための訓練の成果が出せてうれしい」と喜びを話すと、池田市長は「日頃の積み重ねがあつてこそその入賞。今後、市民の安全を守るため頑張ってもらいたい」と鼓舞しました。



全国消防救助技術大会入賞報告

子育てを楽しく便利に

9月1日、マイナンバーカードの事前登録によりスマートフォンなどで利用できる「都城市電子母子手帳サービス」がスタートしました。本サービスは、従来の母子手帳と併せて利用するもので、健診や予防接種の記録を確認できたり、予防接種予定日の通知などを受け取れたりします。また、写真などを使って日記も作成でき、家族で情報を共有できます。利用中の皆さんからは「母子手帳の不便さが解消され、遠方の祖父母と子どもの成長を共有できうれしい」と喜びの声が寄せられています。



電子母子手帳サービス開始



あなたの体力どれくらい？

都城市体力テストが9月2日、早水公園体育文化センターで開催されました。市民の体力と運動能力の分析と併せて、スポーツの指導のための基礎資料を得ることを目的に開催されたこの催しに、20代〜70代の市民約80人が参加。参加者らは、成年と高齢者の部に分かれ、握力や立ち幅跳びなどを測定し、爽やかな汗を流していました。参加した今村孝吉さん（高城町大井手）は「前回よりも良い結果を出せてうれしい。健康で暮らせるよう、日頃から運動を心掛けたい」と笑顔で話していました。



都城市体力テスト

地域おこしに新しい風

本市の新しい特産加工品の開発などを行う地域おこし協力隊の辞令交付式を9月4日、市長室で行いました。着任した大内康勢さんは、初の男性隊員。東京では不動産関係の業務に従事していましたが、母親の出身が本市という縁で、今回の隊員に応募しました。「みやこんじょをどげんかした」という強い気持ちで来た。都城を盛り上げていくのに役立ちたい」と意気込みを語りました。池田市長は「民間で培った経験を遺憾なく発揮し、本市に新しい風を吹き込んでほしい」と激励しました。



地域おこし協力隊辞令交付式

長寿と健康を祝福

老人の日・老人週間を前に、市内の最高齢者と今年度100歳を迎える高齢者に敬意を表し、健康と幸せを祈念する世帯訪問が9月5日、市内各所で行われました。今年度、市内の100歳到達者は60人。市内最高齢となる内村ノブさん（107歳・庄内町）を池田市長が訪問し、祝い状や名前が書かれた都城焼の大湯飲み、花束を贈り、長寿を祝いました。池田市長が「これからも元気で過ごしてください」と祝いの言葉を掛けると、家族に囲まれた内村さんはうれしそうにうなずいていました。



高齢者世帯訪問

待望の新施設が稼働開始

市営駒発電所（山田町）の改修工事落成式が9月6日、同発電所で行われました。本市唯一の市営発電所でもある同発電所。昭和31年から60年にわたって稼働し続けた発電設備が老朽化したことから、平成26年度から改修工事を実施し、このほど完成しました。落成式には、関係者ら42人が参加。安全を祈願する神事が執り行われ、池田市長が「これからも地域のために力を発揮してほしい」とあいさつしました。その後、地元水利組合の代表者らによる通電開始式が行われ、本格稼働しました。



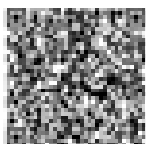
駒発電所落成式

住宅取得への支援を強化

9月6日、独立行政法人住宅金融支援機構と本市が、住宅取得支援に関する連携協定を締結しました。県内では初となる自治体と同機構との連携協定。この協定締結により、住宅ローン「フラット35」を借り入れて、市外からの転入者や中山間地域などで住宅を取得する子育て世帯が、市の住宅取得に関する補助制度を受ける場合に、借入金利が優遇されます。住宅取得の補助制度の詳しい情報は、市ホームページに掲載しています。



住宅金融支援機構との連携協定締結



人の風景

smiling faces of miyakonojo

芸術の秋、恒例の都城市美術展が今年も開催されました。歴史あるこの展覧会を支える実行委員であり、市立美術館の魅力を分かりやすく市民に伝える「美術館友の会」の会長を務めるのが八木常憲さんです。

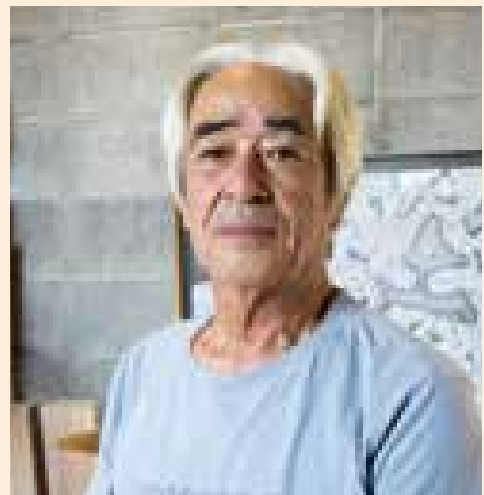
子どもの頃から美術に関心があった八木さんは、高校生の頃には市美展に出品するなど、学校の先生や画家である兄の影響もあって、将来は美術に関わっていききたいと自然と考えるようになりまして。そして、幼い頃から目にしてきた霧島連山を中心とした都城盆地の情景の素晴らしさを多くの人

に伝えていきたいと思い、美術教諭を志すようになりました。

都城泉ヶ丘高校や都城西高校など、県立高校で美術教諭を務めた八木さん。教壇に立つ一方で、彫刻を中心に制作活動に励み、素材の持ち味を最大限生かした八木さんの作品は、宮崎県美術展の特選をはじめ数々の賞に輝いています。また、都城泉ヶ丘高校に勤務していた頃から、市美展の実行委員も務めていて、作品の講評を行うほか、よりよい展覧会になるように改善策も提案。「市外の人の作品を受け入れたり、立体と平面という大きな分類で作品を募集し

たりしたことで、多様な作品が出品されるようになり、展覧会のレベルアップにもつながっている」と力を込めます。

退職後は、都城市立美術館友の会の会長として、展覧会に合わせたワークショップを企画するなど、市民の美術に対する関心を深める取り組みを続けている八木さん。「美術館と連携しながら、美術を身近に感じてもらえるよう市民にPRしていきたい」と話します。絵を描く経験がない人でも楽しめる絵画教室などを実施し、誰でも気軽に、美術に接する機会を創出しています。



都城市立美術館友の会 会長
八木 常憲さん

—プロフィール—

都城市美術展実行委員会 副会長
上長飯町在住

また、昨年の12月には会員と一緒に、手あかなどで汚れた美術館の壁面を清掃。より多くの人に気持ちよく美術館へ足を運んでもらえるよう、影ながら支えています。

現在も週に2日、都城東高校で美術を教える八木さん。生徒たちに美術の素晴らしさを伝える一方で、自身も刺激を受け、「自分が納得するまで挑戦し続けたい」とこれからの制作活動にも意欲的です。「都城は美術環境に恵まれた地域。より多くの人に、美術を身近なものに感じてもらえるようこれからも取り組んでいきたい」と目を輝かせていました。



美術環境に恵まれた都城で
美術の素晴らしさを伝える